「ため池逆流」被害の解消求め裁判

平池団地自治会 副会長　山庄司 巌

高松市の南部、香川町にある団地では、1968年に入居が始まり56年が経過しました。当初は池を埋め立てた水辺の環境がよい団地でしたが、20年が経過した時に、側溝に水がたまり、夏には悪臭、蚊の異常な発生が起き、カビやナメクジの被害が自治会に寄せられるようになりました。

2008年以降、連合自治会の協力も得て、市、県の関係各所にも要請を繰り返し、池の管理を行っている土地改良区から「ゴミは回収するが水の水位は下げられない」という回答を得ました。私たち自治会の要求は「団地が完成した時の状態に戻してほしい」という当然のものです。証拠が何もない中で15年間押し問答を繰り返してきましたが、3年前に池の底にヘドロ、汚泥が1・5mもたまっている証拠を得ました。「水位が上がり団地内への水の逆流がある」と判明し、土地改良区と自治会は交渉を続けてきましたが解決しませんでした。

2つの自治会は臨時総会を開き、調停での解決を目指したが、土地改良区の回答はゼロでした。結果的に裁判起こしましたが、今年1月15日の裁判直前に「主張は追って行う」との土地改良区の答弁書が届き、裁判は延期となっています。

【3面につづく】

「戒厳令」と緊急事態条項（4）

9条の会・かがわ　事務局

韓国では尹大統領の暴挙を、国会の素早い対応と、国会前に集まった数十万人をはじめ全国各地で「民主主義守れ」と声をあげた国民、労働組合のゼネストなど、「民主主義の力」で阻止し、大統領は弾劾訴追され、検察により収監、起訴されました。こうした議会と国民が力を合わせた「民主主義の力」をこそ私たちは学ぶ必要があります。

日本においても、原発反対や消費税減税など「一点共闘」で市民と野党が力を合わせる「草の根民主主義」が、二〇一五年の安倍政権による安保法制の強行に反対する国民的運動に発展し、多くの若者を含む十万人以上が国会を取り囲んで「民主主義ってなんだ？」「これだ！」と声を上げました。安保法制は強行されたものの、この反対運動は市民と野党の共闘の発展を促し、「総がかり行動」や「市民連合」など、立憲主義・民主主義を取り戻す運動として大きく広がり、改憲策動をくい止め、その後の国政選挙における野党統一候補の擁立と一定の勝利につながりました。

この「市民と野党の共闘」に対し、「財界・大企業中心政治」、アメリカ言いなりの「戦争する国づくり」を進める安倍・菅・岸田政権は強行採決を連発して悪法を次々に成立させるなど、「数の力」で国会・国民を無視した悪政をごり押しし、野党共闘に対しても卑劣な反共宣伝などで分断攻撃を仕掛けてきました。しかし、「裏金問題」で自民党と財界・大企業のズブズブの癒着ぶりが明らかになる中で行われた昨年の総選挙で、腐敗した政権は国民の厳しい審判を受け、自公勢力は少数与党に転落し、改憲勢力も衆院で三分の二を下回りました。

この新しい力関係のもと、与党は悪法の強行採決はできません。改憲案をまとめて発議することも極めて困難になりました。このチャンスにいまこそ市民と野党の共闘を再構築し、強固な「民主主義の力」を作り上げる必要があります。そしてその力で、「財界・大企業中心」「日米同盟絶対」の政治を変え、国民諸要求を実現させねばなりません。　韓国の事態から教訓をしっかりと学び取り、改憲による独裁・軍事国家への道を阻止し、国民が主役の、「民主主義の力」で動く政治の実現に力を尽くしましょう！

【2面から】土地改良区の管理業務には「池干し」が明記されていて、泥が1・5mもたまってよいはずがありません。長年の水の逆流、滞留により地盤が軟弱化しているからか、一昨年から電柱が2本も傾き、南海トラフ地震が近づく状況で住民は液状化による2次被害拡大を心配しています。

土地改良区という公的法人は住民の安全安心を最優先にした運営を行うべきです。公正な判断が裁判でなされ、住民の安心な生活を保障するために運動に取り組んでいきます。

「日本被団協」がノーベル平和賞を受賞

香川の一会員として今思うこと⑥　藤井 明

地球に生きている人はみな「被爆者候補」だ！…「米の核ミサイル発射？」そのときソ連では

核兵器はコンピューターで制御されているそうですが、それでも偶発的な事故やミスは避けられません。しかも、間違いが起こった時の影響は他の兵器とは比べ物にならないほどに破滅的です。「被爆者」が生まれなかったことはもちろん、人類が滅亡していないのは単なる幸運でしかない、そう考えても不思議でない事件も実際に発生しています。

1983年9月、モスクワ近郊の旧ソ連軍の司令所で米国からの核ミサイル攻撃を知らせる警報がなり響きました。しかしそれは実際にはシステムの不備による誤報で、監視衛星がアメリカ本土での核弾頭発射の兆候を誤検知したものだったと言われています。当直はペトロフと言う中佐だったそうですが、本来であれば彼は、クレムリンの共産党首脳部に連絡して報復の手はずを整えなければなりません。しかし中佐は、人工衛星システムの信頼性と探知したミサイルの本数が想定を大幅に下回っていたこと等からシステムが誤作動した可能性を排除できないと考え、規則を逸脱して共産党首脳部には報告しませんでした。（警報が作動した事実そのものを報告したかどうかについては諸説あります）結果としてその判断は正しかったのですが、もし彼が、「ミサイルがこちらに向かっている」と報告していれば、全面的な核戦争に発展した可能性もあったのです。この事件は、ドキュメンタリー映画『赤いスイッチと世界を救った人間』でも紹介されていますが、旧ソ連が誤認によって核戦争を引き起こす事態が避けられたのは、幸運以外の何物でもなかったという事です。

なお、これは余談ですが、ペトロフ中佐はその後、規律違反を問われ、前途洋〃としていた彼の軍歴は恒久的に損なわれた上に、退役後も比較的貧しい年金生活を送ったとのことです。その行動が結果的にソ連の軍事システムの欠陥を明らかにし、上層部をまずい立場に立たせたからかもしれませんが、2017年5月19日、彼はモスクワ近郊で77歳にてひっそりと亡くなったことが知られています。

地球の息吹⑨　瀬戸海　大地

「香川の大地のなりたち」

瀬戸内海に浮かぶ島や讃岐平野の山は趣深い景観です。これらの地形（土地の形状や起伏）の基盤となる花崗岩（かこうがん）類は約一億年前の地球規模の地殻変動によって形成されたマグマが、地下深い場所で冷え固まって出来たものです。花崗岩は周囲の地殻と比べて低密度なため、ゆっくりと隆起して山脈が造られました。地表に露出した花崗岩は風化によりマサ土となり、更に砂浜の白砂も形成しました。

【瀬戸内海火山活動が地形形成のカギ】

約一四〇〇万年前には瀬戸内海火山活動によりサヌカイトなどの安山岩が噴出して、約九〇〇〇万年前に形成されていた花崗岩類を覆いました。現在の屋島と五剣山の間には高い山があり、屋島も五剣山も湖でしたが、【4面につづく】

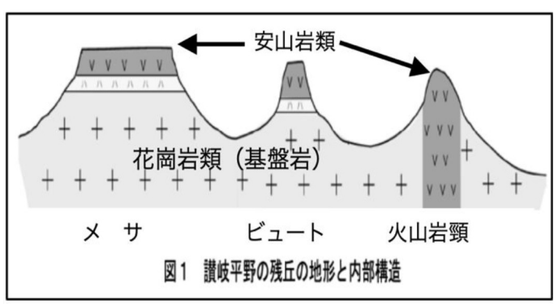

図1　讃岐平野の残丘の地形と内部構造